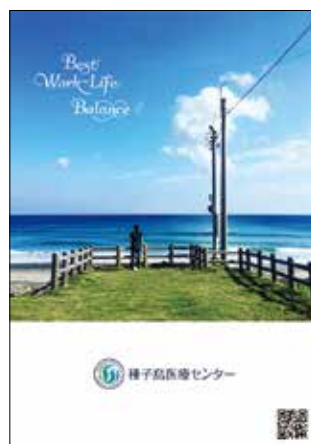

活動紹介



活動紹介

種子島医療センターサーフィン部 (Tanegashima medicalcenter Surfing Club:TSC)

臨床工学室 臨床工学技士 上妻 友紀



種子島は本土最南端から約40km南に位置した細長い形をした離島です。島内にはいろいろなサーフポイントが存在し、ほぼ毎日どこかでサーフィンが可能でサーフアイランドとしても有名な島です。私の住む西之表市は車で30分走ればほとんどのサーフポイントを周ることができます。こんなに海を近くに感じながら働ける環境もなかなかないのではないのでしょうか。

この活動紹介を書かせていただくのも2回目で、以前8年前に書いたものを読んでみると、当時の自分はほぼ毎日のようにのんびりサーフィンをしていたようでしたが、現在では結婚し子供にも恵まれ、仕事・子育ての合間を縫ってサーフィンをするようになりました。それでも週1は海に行けており、理解して気持ちよく送り出してくれる家族には感謝しかありません。毎日多忙な業務をこなし、休日のサーフィンで心身を癒すことでワーク・ライフ・バランスのとれた充実した生活を送れています。

TSCは2004年に創部し今年で20年目を迎えます。TSCメンバーは、田上寛容理事長をはじめ様々な職種の方たちがおり、みんなサーフィンが好きで個々のサーフィンライフを満喫しています。今年度は初の女性部長の就任もあり、今後ますます活動が楽しみになっているTSCであります。今からサーフィンを始めたい方、はたまた昔サーフィンをしていてまた波乗りしたい方、ぜひ私たちに声をかけてみてください。一緒に海に入り、素敵なサーフィンライフを送ってみませんか。部員一同楽しみに待っています。



種子島医療センター バスケット部 MEDS

副院長兼眼科部長 田上 純真

毎週火曜日、木曜日の19:00～21:00、日曜日の9:30～12:00に、住吉にある「せいざん病院体育館」で練習を行い、社会人から高校生、中学生まで参加して一緒にバスケットをやっています。2023年度は11月17日に熊毛郡バスケットボール選手権に出場し、ベスト4入りしました。

今年度も皆さんがバスケットを楽しめるように続けていく予定ですので、よろしくお願いします。



種子島医療センター ゴルフ部

泌尿器科部長 中目 康彦

ゴルフコンペというより親睦会で、1～2か月ごとに2～3組で種子島ゴルフリゾートでラウンドを開始(再開)しています。ゴルフ場は景色が美しく、海、海岸またロケット打ち上げ基地を見ながらのショットは心洗われ爽快ですが、コースは難易度が大変高く、さらに雨が降ろうものなら飛距離、スコアが大幅にダウンし、散々な結果になります。それでも皆楽しくラウンドしています。

私は18歳でゴルフクラブを握りました。50年も前のことで同級生からの勧めでした。18歳から35歳まで関東に住んでいた時は名門コース(たまに)や片道2～3時間かけて群馬、栃木、千葉、静岡にも行っており、経験値などから自分勝手に上手い方だと思っていましたが、その自信を打ち砕いたのが種子島でのゴルフでした。

ゴルフは初心者歓迎です。ゴルフ場は近くにあり、さほど混んでなく急がされることも他コースに比べても少ないため楽しくラウンドできると思います。原則、雨天現地集合はお忘れなく。参加をお待ちしています。

エクスプローラーズ鹿児島

副院長兼眼科部長 田上 純真

今年度もお世話になりありがとうございました。

2023年5月には「3x3united インターカンファレンスラウンド」鹿児島大会が開催され、鹿児島市内中央駅前アミュ広場で熱い応援の中、大接戦を繰り広げながらも4位という結果でした。6月に開催された「3x3.EXE PREMIER 2023 Round.2」では10位でしたが、2024年2月に行われた3x3 日本選手権大会(東京都・大森ベルポート)では、日本選手権大会では過去最高の7位入賞を果たすことができました。

また、2024年3月23日、24日には選手8名で種子島を訪れ、「エクスプローラーズ鹿児島 in 種子島」を開催することができました。せいざん病院体育館で行った「バスケットボールクリニック」には、たくさんの小学生、中学生、高校生たちが参加し、熱心に学び、楽しむ姿が印象的でした。種子島のバスケットボール熱がもっと高まり、いつか種子島からプロ選手が誕生することを期待しています。

3人制プロバスケットボールにおいては、全国的なチーム数の増加やプロリーグの多様化などの動きがあり、私たちは今後 3x3UNITED と FIBA JAPAN TOUR のふたつのリーグを主戦場に活動してまいります。2ポイントシュートを武器に、これからの躍進を目指して頑張りますので、応援のほどよろしく願いいたします。



アミュ広場で開催された「3x3united 鹿児島大会」



「エクスプローラーズ鹿児島 in 種子島 2024」

種子島から世界へ。大好きなテニスでみんなを笑顔に

広報企画課 姫野 ナル(プロテニスプレーヤー)

皆様におかれましては平素より多大なるご支援を賜り深く感謝申し上げます。

2022年12月の手術以降、私自身の難病とも向き合いつつの活動となり、2023年に復帰後は最後までコートに立ち戦い切れない試合もありました。不甲斐ない結果が続き、このままたくさんのサポートをいただいている活動を継続してよいのか、申し訳ない思いが募り、自問自答をしながらの選手生活となりました。

しかし、たくさんの方々からの「焦らないで頑張り続けて欲しい」という心強いメッセージ、同じ病気を抱えておられる方やご家族から寄せられる「勇気を貰った」というお礼の言葉、大会会場でいただく多くの温かい声援のお陰で、私は前進をすることができました。今の自分をより強く進化させて世界で戦える強固な姫野ナルを作り上げていく所存です。

このような状況下ではございますが、本年度も高尾尊身病院長をはじめとする種子島医療センターの皆様。そして多くの方々よりご指導を仰ぎ、ご支援を賜り活動をさせていただいています。手術から一年経過の昨年末より新たなホルモン剤投薬が始まり、安定せず不安要素になっていた体調も現在安定し、調整を兼ねて大会復帰致しました。引き続きこれからも技術の改良身体の強化ともに精進をします。

そして未だ毎月検査を受けながら薬の調整が必須の状況下ですが、2023年度も支援していただきながら活動を継続することができました。

【2023年度 活動内容】

日程	場所	内容	結果
5月	岩手県	いわて八幡平オープンテニス大会	Best 32
6月	新潟県	北信越テニス選手権大会	Best 32
	千葉県	\$ 15000大東建託オープン	予選敗退
8月	埼玉県	Fテニスオープン	Best 32
	宮城県	東北オープンテニス大会	Best 32
	福岡県	鹿児島銀行 九州実業団	準優勝
9月	広島県	鹿児島銀行 全国実業団	7位
	京都府	\$ 25000 GS YUASA OPEN	予選敗退
2月	種子島	中種子町よいらーいきスポーツクラブ テニス教室	

「種子島から世界へ。大好きなテニスでみんなを笑顔にしたい」

この想いを追うことができるという感謝を胸に、自分が強くなっていき社会貢献ができると信じ、病気やケガなどで辛く苦んでおられる方々やご家族の方へ希望の光をお届けしている選手へと成長します。

2024年度は、国内大会はもちろん、海外遠征、国際大会への出場を再開し、夢の実現に向けて邁進を致しますので、ぜひ応援のほどをよろしくお願い申し上げます。

みなさまのご健康ご多幸を祈念して私のご挨拶とさせていただきます。



緩和ケア集合研修会

経営企画改善室 戸川 英子

今年度も令和5年11月23日(日)に地域がん診療病院である当院におきまして「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づく緩和ケア研修会(P E A C E)を開催いたしました。瀨之上雅博副院長、血液内科の松下格司先生、心療内科の網谷東方先生のご指導のもと、5回目の開催となり、研修修了者は医師以外にも看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士等院外受講生も含めて総数60名となりました。特に令和5年度は、島内全体で在宅療養に関わっている、理学療法士、看護師、薬剤師の参加が増え、緩和ケアの関心度が高くなっているようです。

集合研修までには、事前のeラーニングの修了が要件であり、当日の集合研修ではロールプレイ、グループワークを通してがん患者さんへの支援方法を1日かけて学びます。症例に対してできることは何か、それぞれの職種と立場から意見交換が活発に行われ、満足度の高い研修となりました。

これからもすべての医療従事者が「いつでも、どこでも、だれにでも」質の高い緩和ケアを提供できるように、本研修会を継続いたします。

多くの方々の受講をお待ちしております。



ロールプレイの様子



1日研修お疲れ様でした!

島内学校訪問(職業講話、企業説明会等)

経営企画改善室 戸川 英子

種子島医療センターでは、行政や中学校、高校からの要請に対応して、医療スタッフが訪問し、当院の概要や役割の紹介、勤務する多くの職種の魅力や仕事へのやりがいについて伝える活動を行っています。職員や知人の生徒さんも多く、病院のイベントに参加してくれる生徒さんが年々増えています。

当院や医療について身近に感じ、大好きな種子島の医療を支える医療人を選択し、数年後に多くの後輩たちを仲間として迎えるその日を期待したいと思います。



種子島中学校



種子島中央高等学校

当院の就業体験に参加してくれた生徒さんとの再開に
にっこり!



種子島高等学校



種子島高等学校



種子島高等学校

令和5年度「種子島子どもまつり」参加

経営企画改善室 戸川 英子

種子島の子どもたちにゴールデンウィークの楽しい時間を作ってあげたいとの思いで西之表市商工会青年部がこどもまつりを企画し、当院へも参加の要請がありました。

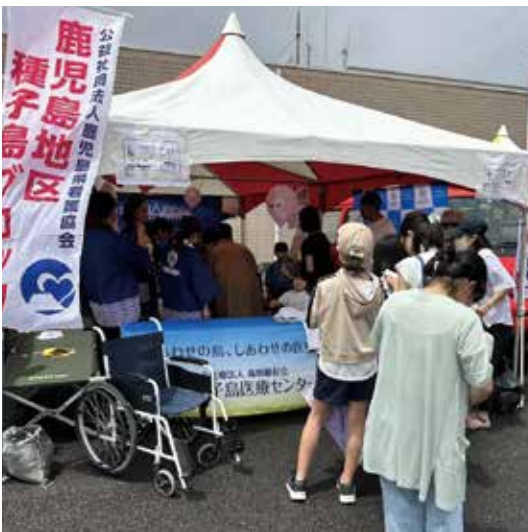
参加者を募集したところ、当初は28名のエントリーがありながら、雨天延期となり、最終的には10名の職員で臨みました。

初めての試みで企画、準備、当日まで試行錯誤でしたが、大好きな風船プレゼントに多くの子どもさんが集まってくれました。

聴診器体験や薬詰め体験、白衣を着て写真撮影など好評な企画となり、子供たちの喜ぶ姿に職員は癒された様子でした。

怖いイメージの病院？のイメージを払拭すべく、来年も参加していけたらと思います。

取りまとめの下江さん、参加して下さった職員のみな様、お疲れ様でした！



ふれあい看護体験

経営企画改善室 原 照美

【開催場所】種子島医療センター

【開催日時】令和5年7月29日

【タイムスケジュール】

9:00 ~ 9:30 集合 健康観察(体温測定) 更衣

9:30 ~ 10:00 オリエンテーション

当院概要説明・DVD視聴

ABグループに分かれ職業体験開始

(途中1時間昼食休憩)

15:00 職業体験終了

15:10 意見交換会、感想文作成 他 について

16:00 終了・解散



今年は種子島高等学校から16名、種子島中央高等学校から8名、計24名の生徒さんが来てくれました！ 2つのグループに分かれて病棟での看護の様子を見学したり、実際に看護体験したりして色々なことを学べて、一日充実した時間を過ごせました。

Aグループ



全体24名



Bグループ



病棟での患者さんや看護職員とのふれあいを通して、看護の仕事を知ることができ、患者さんと看護職員とのやりとりを見学したり、体験することで色々な思いを感じられたことと思います。皆さんの真剣な表情で学ぶ姿にとっても感動しました。一日笑顔でふれあい看護体験ができてよかったです。

就業体験学習報告

【種子島高等学校】

経営企画改善室 原 照美

種子島高等学校 2年生19名

令和5年10月18日～20日9時～16時



集合写真

【種子島中央高等学校】

種子島中央高等学校 2年生1名

令和5年10月11日～13日9時～16時



各自、希望の部署への実習ができ、いろいろな貴重な体験ができましたね。初めて見るもの、触れるもの体験するもの..たくさんあったことと思います。この経験を忘れず、これから皆さんそれぞれの夢や目標に向かって頑張ってください!

種子島高等学校の19名、種子島中央高等学校の1名の計20名の皆さん、3日間の就業体験学習お疲れさまでした! 種子島医療センター職員一同、みなさんの夢を応援しています(^^) /



ボランティア受け入れ報告

経営企画改善室長 戸川 英子

種子島医療センターでは、地域に根ざした病院として、地域住民などによるボランティアを積極的に受け入れ、専門性を活かしたボランティア活動を行ってもらっています。ボランティアの方々の笑顔とふれあいにより、患者様の心の安らぎがもたらされ、大きな支えになっています。

七夕事業所訪問(めいろうこども園)

めいろうこども園の園児たち手作りの大きな七夕飾りが届きました。毎年、子供たちが一緒に届けてくれて七夕の歌を元気に歌ってくれていたのですが、今年度は感染症の流行等もあり、訪問できませんでした。子供たちの願い事をみて、スタッフ一同、心が癒されました。

ありがとうございました。



ハロウィン事業所訪問(院内保育所)

院内保育所の園児たちがかわいい衣装を着て、訪問してくれました。かぼちゃの衣装がとても似合っていてとてもかわいかったです。お菓子をもらって嬉しそうな子供たちの笑顔が最高でした。

病院長からもお菓子を受け取って笑顔で帰っていきました。また来年も遊びにきてくださいね。

クリスマスキャロル (西之表基督協会・めいろうこども園)

12月23日西之表基督協会の皆様と、めいろうこども園の園児たちが種子島医療センターに素敵な讃美歌を届けていただき、皆様の回復と健康をお祈りしていただきました。素敵な歌声が病院中に広がり、一緒に歌っている患者様もいました。

毎年、素敵な歌声をありがとうございます。



医療講座

総務課長兼任広報企画課長 飯田 雄治

西之表市高齢者支援課 西之表市地域包括支援センター主催による出張「医療講座」は、今年度は11回開催することができました。田上寛容理事長の講話は笑いが絶えず、みなさん楽しみにされているようです。

	日時	地域 / 団体	場所	参加人数	講師(医師)
1	2023/4/16(日)	上西校区/特定健診	上西校区公民館	25	田上 寛容
2	2023/5/7(日)	現和校区/特定健診	現和区長事務所	15	田上 寛容
3	2023/6/8(木)	なでしこ会	榕城中目公民館	30	田上 寛容
4	2023/6/15(木)	下石寺からいも会	下石寺公民館	9	田上 寛容
5	2023/9/7(木)	よきの きらきら	住吉下能野公民館	12	田上 寛容
6	2023/10/19(木)	現和上之町・下之町 ひまわりクラブ・こすもす会	現和上之町公民館	13	田上 寛容
7	2023/10/26(木)	天神町はつらつクラブ	天神町公民館	8	田上 寛容
8	2023/11/16(木)	池野老人クラブ	下西池野公民館	13	田上 寛容
9	2023/12/7(木)	中野福寿会	中野公民館	40	田上 寛容
10	2024/1/18(木)	下西校区高齢者学級	下西校区公民館	40	田上 寛容
11	2024/1/25(木)	花の西俣クラブ	西俣公民館	16	田上 寛容



報道・広報関係

【新聞掲載】



【ニュースサイト掲載】

自衛隊基地建設が進む馬毛島に診療所開設 作業員の遠隔診療が可能に

2024/02/01 21:39



防衛 医療・福祉 西之表市 馬毛島

防衛省は1日、自衛隊基地整備が進む鹿児島県西之表市馬毛島に、工事関係者向けの診療所を開設した。島内に昨年3月設置した医務室の看護師が、必要に応じて同市の種子島医療センターの医師と遠隔でつなぎ、オンライン診療ができるようになった。

診療所は仮設宿舎内の医務室とは別棟で、広さ約180平方メートル。島内の工事関係者は昨年12月22日時点で千人。看護師2人が医務室に常駐し、医師が週に一度巡回診療している。



仮設の建造物が密集し、街のように見える島の中央部＝本社チャーター機から撮影

拡大

南日本新聞373news.com 2024年2月1日掲載

【雑誌・WEB サイト掲載】

日経メディカル「シリーズ◎新興感染症」2023年9月25日掲載



シリーズ◎新興感染症

INTERVIEW◎種子島医療センター病院長の高尾尊身氏に聞く

インフル+コロナ同時流行をどう乗り越えたのか

2023/09/25

三和 護 = 編集委員

「梅雨が明けると爽やかな青空と海と緑の種子島になる。だが、今年の夏は今までとちょっと違う」。鹿児島県西之表市にある種子島医療センターの病院長を務める高尾尊身氏は、院内向けに発信した「7月講話」をこう書きだした。例年なら熱中症への対応を求めるところが、今回は違った。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の患者だけでなく、季節外れのインフルエンザ患者も急増したからだ。高尾氏は「センターの結束とパワーで『発熱の夏』を乗り越えよう」と呼びかけた。はたしてどうなったのか（文中敬称略。同センターの概要は文末に記載）。



種子島医療センターの高尾尊身氏

1日50～100人が発熱外来に

— 鹿児島県では、6月に季節外れのインフルエンザが流行し、2023年6月12～18日の週（第24週）に定点当たり10人を超え注意レベルに達しました（図1）。並行してCOVID-19流行も再燃し、同週に定点当たり10人に迫っていました。地域別（保健所管轄別）を見ると、特に西之表保健所管轄区域で、インフルエンザとCOVID-19の同時流行が起こっていた様子がうかがえます（図2）。種子島医療センターは、西之表保健所管轄区域の中核病院ですが、同時流行の状況はどうだったのですか。

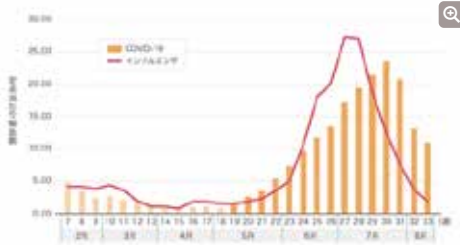


図1 鹿児島県のCOVID-19とインフルエンザの流行状況（2023年。国立感染症研究所のデータを基に作成。COVID-19の第18週までは、厚生労働省の全数把握から定点当たり報告数に換算したデータに基づく）



図2 鹿児島県の保健所管轄区域別に見たCOVID-19とインフルエンザの流行状況（2023年。鹿児島県感染症情報から）

高尾 種子島医療センターは、西之表保健所管轄区域の唯一の定点医療機関ですので、図2の西之表のグラフがそのままセンターの患者数となります。もう少し詳しく見たものが図3、図4です。6月半ばごろ（第24週）から、インフルエンザ患者もCOVID-19患者も増え始めました。インフルエンザ患者は、第25週に定点当たり40.0人となり、その後いったん減りましたが、第27週に35.0人に再び増えました。その後は減少しています。一方のCOVID-19の方は、第25週に61.0人と急増し、その後、第27週に64.5人まで増えて、以降、減少はしていますが、第31週まで40人以上という高い水準が続きました。

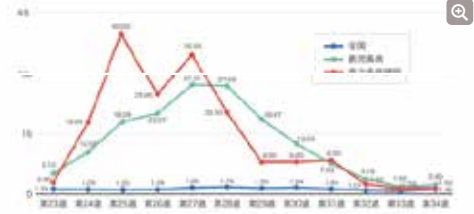


図3 種子島医療センターのインフルエンザ患者の推移（2023年。西之表市のデータを基に作成）

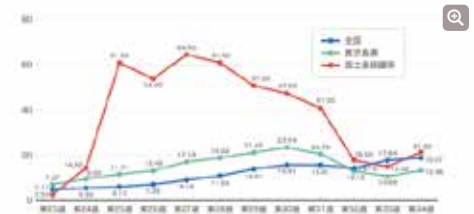


図4 種子島医療センターのCOVID-19患者の推移（2023年。西之表市のデータを基に作成）

— この時期の1日の一般外来患者数は400～500人とうかがいました。そこに、インフルエンザとCOVID-19を合わせた患者が、多い時で週に101人（第25週）も上乗せになったこととなります。第26週から第31週まで、合計数は週当たり79.0人、99.5人、81.5人、59.0人、55.5人、49.5人と推移しています。それぞれの陽性率はインフルエンザで平均10%、COVID-19で平均50%ということですから、全体の発熱患者数はもっと多かったこととなります。外来での対応は、相当大変だったのではないのでしょうか。

高尾 発熱外来には1日に50～100人ほど来ていましたので、確かに大変でした。ただ、COVID-19はオミクロン株流行前に比べて重症者が少なかったため、COVID-19入院病床（稼働病床は8床）が埋まることなく、入院機能がひっ迫することはなかったです。インフルエンザも入院する例はありませんでした。

短期間に急増する発熱患者への対応が鍵

— とすると、一挙に増えた発熱外来患者にどう対応するかが大変だったわけですか。

高尾 COVID-19の過去の流行時と同じで、発熱外来での対応は基本的に変わりません。外来全体の対応ですが、全ての患者にはサージカルマスクの着用をお願いしています。発熱外来の対応は、まず病院に電話をしてもらい、その際に問診を行います。このとき受診時間を設定して、待機時間が15分以上にならないようにしました。問診で緊急の優先度が高いと判断したら、救急外来にある発熱患者対応エリアで診察を行います。

受診からの流れは小児と成人で異なるのですが、成人の場合は表1ようになります。発熱外来で診察する前に、発熱のある人や明らかな濃厚接触者には新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス抗原定性検査を実施しています。成人については私も含めて、3人の常勤内科医が対応しました。また、大学からの派遣医も外来を担当しました。小児の場合は成人と同様に予約制で、電話で診療時間の調整を行います。来院したら小児待機コーナーに誘導し、診察と検査を同時に実施しています。小児科が対応しますが、3人の常勤医がフル稼働してくれました。

表1 種子島医療センターの発熱外来の流れ（成人の場合）

- (1) 発熱で来院した人に、発熱外来受診前に、看護師が新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス抗原検査キットで検査を行う。
 - (2) 発熱で来院した人で熱中症が疑われる場合は、救急外来で対応する。
 - (3) 同時検査キットでインフルもコロナも陰性の方は、一般外来へ誘導する。
 - (4) 同時検査キットでコロナ陽性の方は発熱外来で診察する（主に一般内科が対応。常勤医3人+派遣医1、2人で対応）。
 - (5) 同時検査キットで、インフルエンザ陽性の方も、コロナ陽性と同一ように発熱外来へ誘導する（主として内科が対応）。
 - (6) 発熱外来で診察したコロナ陽性者で肺の症状が疑われる場合は胸部CT検査を実施。検査で肺の症状が確認された人をCOVID-19入院病床への入院とする。肺の症状を認めない人は自宅療養へ（電話などでのフォロー）。
 - (7) 発熱外来で診察したコロナ陽性者で肺の症状を認めない場合は、軽症例として自宅療養へ（電話などでのフォロー）。
- * (6)、(7)は小児の場合も同様に対応。



写真1 種子島医療センターの発熱外来（救急外来の入り口に隣接）

— 発熱外来受診前に同時検査キットで検査を行うことは、注目すべき点だと思います。事前検査の結果を基に一般外来と発熱外来へ振り分けられたことで、発熱外来の負担は軽減されるからです。また、成人と小児で診療の流れを分けたことも、患者の分散化に貢献したと思います。

見えてきた課題は何か

— 6月以降の同時流行を振り返って、課題も見えてきたのではないのでしょうか。

高尾 多くの患者は、自家用車で来院します。多い時は駐車場に入れず、公道に車の列ができることもあります。診察の順番が来るまで車内で待つことになりませんが、今回は熱中症の心配があったので、待機中に具合が悪くなった場合への対応が課題でした。受診の待機中に具合が悪くなった人は、救急外来の発熱患者対応エリアで診察を行っています。具合が悪そうとなったら病院に電話連絡してもらい、救急外来が対応する流れでした。これで問題はないのか、検討したいと思っています。

— そのほかには、例えば職員の感染者も目立ったようですが。

高尾 COVID-19の院内クラスター（7月30日時点で16人の入院患者が感染）も、職員の感染もありました。職員の感染は人手不足につながり、医療機能の低下を招きますから対策は必須です。職員対応については大前提として、体調を整えて仕事に従事できる環境づくりを目指しています。そのため、感冒症状（発熱の有無に関係なし）で明らか初期症状があるときは「休む」ことを徹底しています。その上で、新型コロナウイルスの簡易抗原検査キットで検査して陰性となり、症状が軽快していれば出勤可としています。これは、何もCOVID-19に限らず、全ての感染症を拡大させない対策の1つと位置付けています。COVID-19と診断された場合は、症状が出た日を0日とし5日間は休みとし、症状が長引く場合は軽快するまで休むことにしています。休みのうち最初の5日間は特別休暇（有給）、6日目以降は有給休暇の扱いとなっています。

— 職員がCOVID-19の濃厚接触者となった場合は、どうなりますか。

高尾 5類移行後は、COVID-19では濃厚接触者の位置付けはありません。センターでは、出勤を可能としています。以下の励行を求めています。同居する人や一緒に飲食を共にした人がCOVID-19に感染したと分かった場合は、（1）陽性となった家族と居住空間を分けた生活を遵守する。（2）勤務中はマスク着用、手指消毒を徹底し、昼休憩は大会議室で黙食する。（3）倦怠感や明らかな感冒症状（咳、鼻水、咽頭痛、発熱のいずれかの症状がある場合）は、前述の感冒症状があるときの対応に従って休む——の3点です。

— 先生は7月講和で「センターの結束とパワーで『発熱の夏』を乗り越えよう」と呼びかけられました。実際はどうだったと振り返られますか。

高尾 職員は本当に頑張ってくれていると思います。COVID-19パンデミックは、だれもが経験したことがない歴史的な出来事です。私はよく、これを好機ととらえて、医療の向上につながるためにも前向きに対策に取り組もうと話してきました。それに応えるように、一人ひとりの職員がそれぞれの部署で積極的に対策に取り組んでくれていると感じています。特に、感染症認定看護師との協同作業が成果に結びついたと思います。

人口増に対応する医療体制を整備

— 種子島北西に位置する馬毛島（まげしま）では、航空自衛隊の馬毛島基地（仮称）の整備が進んでいます。種子島にも関連施設が整備されています。これに伴い、工事関係者らの入島が進んでいるとうかがいました。

高尾 3万弱の人口の種子島に、既に1000人ほどの入島があったそうです。5年後には全体で5000人にまで増えるようです。人口が増えて街が活性化するのは、いいことでしょう。ただ、人口増加には、医療の視点で見ると予期せぬ感染拡大というリスクがあります。その負担が私たち医療関係者にのしかかります。まずは人口増に対応する医療体制を構築する必要があります。そこで県や大学病院などの協議のもと、対応の第一歩として、種子島医療センターが7月15日から馬毛島への巡回診療を開始しました。馬毛島診療所も建設中です。また、主として鹿児島大学病院と鹿児島市立病院と協力して、種子島医療センターが救急医療に対応することになっています。

— 新たな医療体制の整備が、予期せぬ感染拡大というリスクの低減につながっていくことを願います。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。



種子島医療センターの概要

設置主体：社会医療法人義順顕彰会

許可病床数：188床

標榜診療科：26科（内科、循環器内科、外科、小児科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、眼科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、心療内科、リウマチ科、消化器内科、呼吸器内科、肝臓内科、腎臓内科、血液内科、糖尿病内科、脳神経内科、消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺 甲状腺外科、ペインクリニック内科）。その他（内科・総合診療科、救急科（時間外・救急）、透視センター、へき地医療センター）。

職員数：365人（2022年度現在）

【書籍掲載】



信頼の主治医

明日の高齢者医療を拓く 信頼のドクター 2024年度版
株式会社ぎょうけい新聞社発行 発売 図書出版 浪速社
2023年11月発行

社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センター

明日の高齢者医療を拓く 信頼のドクター

鹿兒島県の離島、種子島。種子島宇宙センターや美しいビーチとサーフィン、美味しい焼酎に絶品の海の幸など。これら、種子島ならではのスポットやグルメを堪能しようと、毎年全国各地から多くの観光客が訪れる人気の島だ。

一方で近年はこうした観光客だけではなく、永住者も増加。人口減少社会を逆行して人口が増え続ける稀有な島として今、確かな存在感を放っている。

そんな、種子島の人口は現在およそ3万人。そして、島に住むこれら多くの人々の健康を長年力強く支えているのが、社会医療法人義順顕彰会種子島医療センターだ。

「地域が発展・成長していくためには教育と医療が不可欠ですが、私ももちろん医療の分野で貢献し、今後も種子島の人たちに安心の生活を届けられる医療を提供していきたいと考えています。こうかを込めて話すのは、種子島医療センターの院長、高尾尊身医師。現在同センターにも、種子島に魅入られ、また種子島医療センターの取り組みに共鳴した多くの人材が全国から集い、働いているという。高尾院長にセンターの特徴や現在の取り組み、種子島の魅力など、様々なお話を伺った。

24時間365日体制で受け入れる種子島唯一の二次救急指定病院
高齢患者でも受けられる体に負担の少ない低侵襲手術を実施

1969年にスタートした種子島医療センター(当時田上容正内科としてスタート)は、50年以上の歴史の中で、地域の医療ニーズに応えるべく、幾度となくアップデートを繰り返してきた。現在は、188床の入院病床と26の診療科目、およそ400名のスタッフを擁し、種子島屈指

203

社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センター

院長 高尾 尊身

信頼の主治医

種子島の人たちに安心の生活を届けられる医療を提供していきたい。

多くの患者と働き手が集う 種子島屈指の医療機関

高度な医療と患者に寄り添うホスピタリティで実現する、しあわせの島、しあわせの医療。

信頼の主治医 INTERVIEW 2024



高度な医療と患者に寄り添うホスピタリティが特徴の種子島医療センター

の規模と陣容を誇る医療施設へと大きな成長を遂げた。現在は、子どもから高齢者まであらゆる世代に医療を提供できる体制が整っている。種子島医療センターには、高齢世代の患者が7:8割を占め、毎日数多くやってくる。高齢者に対する医療について高尾院長は、「高齢者医療は、救急医療、外科的、内科的医療、リハビリテーションに大きく分けられますが、それぞれが上手く機能し合うことが大切」と説明する。さらに、「これら全ての部門において強みを発揮できるのが当センターの特徴であるといえます」とも。

救急においては、種子島唯一の二次救急指定病院に認定されており、救急で運ばれてくる患者を24時間365日体制で受け入れ、いかなる場合も断らない医療を実現。主に、脳卒中や心筋梗塞、骨折などでの救急搬送が多く、救急車搬送は年間約1000件、命を救う最後の砦として大きな役割を果たしている。

社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センター

明日の高齢者医療を拓く信頼のドクター

外科的、内科的治療についても、センターに在籍する熟練の医師と最新鋭の設備を駆使してほぼ全ての疾患に対応する。「高齢者の方々に対しては、体への負担を極力かけない低侵襲治療を積極的に行っていきます。今は手術のリスクを考慮しなければならぬような、80〜90歳といった高齢患者さんに対しても、低侵襲により普通に手術を行うことができます」。低侵襲治療の代表格ともいえる腹腔鏡手術。高尾院長は腹腔鏡手術の新規性、将来性を考え、鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センターの教授時代、全国から腹腔鏡手術の研修を希望する多くの若い医師が参加した、ミニプラを利用した腹腔鏡手術研修施設を2004年に創設し、2004年の退官まで運営した経験がある。

疾患別のスペシャリストが揃うリハビリ専門スタッフ

多職種連携で提供する訪問による診療、介護、リハビリ

「高齢者医療の根底を成すのがリハビリテーション。言うまでもなく重要な分野です。当センターで今多くの手術を実施できているのは、しっかりとしたりリハビリの体制が整っているからであることは間違いありません」。

このように、高尾院長も絶対の自信を見せる種子島医療センターのリハビリテーション。およそ80名ものリハビリ専門スタッフが在籍し、整形外科、脳卒中、呼吸器、認知症、終末期など、疾患別のスペシャリストがチームとなり、術前後の急性期、急性期を脱した後の回復期、そして退院後の生活期と、全てのシーンにおいて一連のリハビリ医療を提供する。「お一人おひとりの

信頼の主治医 INTERVIEW 2024

患者さんにとってベストとなるリハビリを行い、日常生活動作（ADL）の向上に努め、寝たきり防止、社会復帰の支援に努めています。こうしたリハビリ分野、そして前述の救急医療や高度な低侵襲治療など、様々な部分に特徴をもつ種子島医療センターだが、近年もう一つ力を入れて取り組む分野がある。それが、自宅や施設への訪問診療、介護リハビリだ。通院が困難な方や退院後の方も、安心して生活が送れるよう多職種や関連施設が密に連携して、家自体が入院施設であるかのごとく、訪問によっても医療やリハビリを提供させていただきます」。

超高齢社会の中で目指すのは、〇〇〇(クオリティオブライフ)「島に住む全ての方を孤独にさせず、亡くなる最期まで面倒を見させていきたい」

「今日の日本の人口で一番多い世代は、団塊の世代である75歳前後の方々です。となれば、人は当然いずれ死にますから、これから大量に人が死んでいく時代がやってくることは間違いありません。この、団塊世代を中心とした今の高齢世代の方々が、いかに幸せな老後を送り、いかに幸せな最期を迎えられるか、当センターはそのサポートに注力していくというわけです」。病氣や寝たきり、不慮の事故など、色んな最期の形があるが、近年誰にも気づかれずにひっそりと亡くなってしまふ孤独死が都心部を中心に増えている。「孤独死は最期の迎え方としては決して幸せではない寂しいもの。体の健康と同様、人との繋がりも、幸せを感じる上で大きな要素だと思っています」。

こう話す高尾院長は、「当センターの訪問医療を通して、島に住む全ての方を孤独にさせることなく、亡くなる最期まで面倒を見させていたくことができればと考えています」と力を込める。また、この種子島という地域自体も、いわゆる「近所付き合いが当たり前に行われ、例え血の繋がりがなくても皆が家族同然に交流し、助け合う文化が根付いている」。種子島は都会に比べ、人との絆や繋がりを強く感じることが出来る場所です。センターでの外来や訪問診療においても、医師を含めた医療従事者と患者さんの距離がとてに近い。都会の病院では決して味わえない医療を受けることができるのではないかと思います」。

断らない救急、生涯患者に寄り添うプライマリケアの実践は「成長につれて欲しい」

「全国の医療従事者の方々に魅力一杯の種子島にぜひ飛び込んで来て欲しい」。種子島医療センターで働く医師やリハビリスタッフのおよそ8割は島外出身の人材。連携する鹿児島大学病院からの人材が多いが、中には北海道や福岡、大阪など、種子島医療センターの評判を聞きつけて、遠方から飛び込んでくるスタッフもいる。「ここ、種子島医療センターは成長にはうってつけの場です」と高尾院長は話す。「例えば救急の現場においては、断らずに全てを受け入れるため、色んな病態の患者さんを診なければなりません。またプライマリケアを重視しており、関わりを持った患者さんに生涯寄り添い、その患者さんの健康に全責任を負い

社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センター

明日の高齢者医療を拓く信頼のドクター

今後ますます人口増が見込まれる種子島
「全ての面でレベルアップし、島内医療の完結をより強固なものにしていきたい」
「今後種子島は、ますますの人口増が見込まれることは間違いありません」と話す高尾院長、その一因が馬毛島の自衛隊基地建設だ。

数値を記録。子どもの人口も着実に増えているのだ。当センターでも3名の小児科医を配し、子どもにも手厚い医療を届けられる体制を整えています。

信頼の主治医 INTERVIEW 2024



左から2人目：理事長。4人目：会長（創始者）。5人目：高尾院長。社会医療法人義順顕彰会の理事のメンバー

向き合っていく医療も求められます。要は頼る所もなく逃げ場もない、医師としての力量が試される場、それが当センターの特徴であるといえます。
高尾院長は、医師やリハビリスタッフだけではなく、看護師や医療事務スタッフなど、医療に携わる全国の人材に、「ここ種子島医療センターに興味をもって飛び込んで来て欲しい」と呼びかける。

信頼の主治医 INTERVIEW 2024



地域の中学生が作成した「コロナに負けない」の横断幕の前で記念撮影

「高度な医療提供体制の構築とともに、種子島医療センターの良き、特徴といったものを全面に押し出して、誰もがここで働きたいと思える唯一無二の医療機関をつくっていくこと、それが私の課せられた使命です」
「全ては島に住む人々の健康のため、そして幸せのため。高尾院長の飽くなき挑戦は今後も続いていく。」

社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センター

種子島医療センター

PROFILE 高尾 尊身 (たかお・そんしん)
1949年 生まれ、福岡県出身。
1973年 鹿児島大学医学部卒業。
1974年 鹿児島大学医学部外科第一講座入局。
1978年 Iron-Japan Petrochemical Company Limited (イラン) 海外医療勤務。

INFORMATION 所在地 〒891-3198
鹿児島県鹿児島市西之表 7463
TEL 0997-22-0960
FAX 0997-22-1313
アクセス 鹿児島空港から種子島空港まで飛行機で約40分。種子島空港から船で約30分。
診療内容 循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、総合診療科、一般内科、腫瘍内科、肝臓内科、血液内科、心療内科、泌尿器科、泌尿器科、消化器外科、肝胆膵外科、乳腺・甲状腺外科、整形外科、脳神経外科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、麻酔科、腎臓内科(透析)、リハビリテーション科、ペインクリニック
診療時間 <月~土> 9:00~12:30, 14:00~17:00 (休診日) 日・祝
院長挨拶 種子島は、鉄血伝来の歴史と最先端科学の豊穡であるロケット基地。そして美しい大自然が同居する神島です。私は、平成26年4月からこの種子島の中枢医療を担う義順顕彰会・種子島医療センターに赴任いたしました。

https://tanegashima-mc.jp/